

たざわ湖スキー場におけるリフト輸送に関する

安全報告書

(平成 18 年度)

営業期間	平成 17 年 12 月 23 日 (土) ~ 平成 18 年 4 月 23 日 (日) 109 日間	
輸送実績	12 月	58,407 人
	1 月	395,013 人
	2 月	470,383 人
	3 月	312,250 人
	4 月	32,182 人



銀嶺クワッドリフト かもしかクワッドリフト 嶺第 1 リフト 銀嶺第 2 リフト
銀嶺第 3 リフト 水沢リフト 黒森山リフト

「おいしい ゲレンデ」

たざわ湖スキー場

1. ご挨拶

いつも「たざわ湖スキー場」をご利用いただき誠に有難うございます。また当社の索道事業に対して格別のご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、昭和45年会社創設以来「**索道輸送の安全確保**」を経営理念の第一に掲げ、以来36年間この方針のもとスキー場事業の基幹業務である索道輸送の安全確保を進めてまいりました。しかし当社は平成14年3月、リフト利用中のお客様を負傷させる、という極めて遺憾な索道事故を惹き起こしました。ここに改めて深くお詫び申し上げます。

二度とこのような事故を惹き起こしてはならないとの信念のもと、ご利用いただくお客様の尊い命をお預かりしている索道事業者であることを再確認し、法令の遵守とともに安全輸送に努めております。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、輸送の安全確保のための取組や安全の実態について、皆様にご理解いただくために作成しました。皆様の忌憚のないご意見、ご感想を今後の輸送の安全に役立てたいと思っておりますので、お聞かせ下さいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 若杉 清一

2. 基本方針と安全目標

【基本方針】

当社の経営理念の第一は、**索道輸送の安全の確保**です。「基本方針」を次の用に掲げ社長以下従事員に周知・徹底しております。

- (1) 一致団結して輸送の安全の確保に努めます。
- (2) 索道を安全に運転するために、十分な知識と技能を習得します。
- (3) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のあるときは最も安全と思われる取扱をします。

【安全目標】

安全管理規定に定めた基本方針に基づき、社長以下全社一丸となり安全管理態勢の強化に努めてまいります。現場巡視を随時実施し、コミュニケーションの充実を図ることにより、安全に対する意識の高揚を図ります。又、不安全行動などの業務報告書を分析、整理し、他事業所の事故情報等と併せて事故防止対策検討会を実施し、態勢の整備を図ります。

3. 事故の発生状況とその再発防止措置

(1) 索道運転事故(索道人身傷害事故)・インシデント(事故の兆候)

平成18年度の索道事故報告並びにインシデントの報告はありません。

(2) 災害(地震や暴風雨、豪雪など)

平成18年度、災害による運行停止はありません。

尚、強風による運行停止は以下の通りです。

リフト名	リフト停止日数	リフト名	リフト停止日数
銀嶺クワッド	3日	銀嶺第3リフト	4日
かもしかクワッド	4日	水沢リフト	0日
銀嶺第1リフト	1日	黒森山リフト	1日

(3) 行政指導等

運輸局からの行政指導等はありません。

4. 安全確保のための取組

(1) 安全教育

輸送の安全性向上を図るためには、知識・技能の向上及び従事員の教育の充実を図ることが重要と考え、各研修会への参加及びシーズン営業開始前にリフト施設の基本的な知識に加え、安全に対する意識、責任の重さ、的確な判断力といったものを徹底的に指導しています。

(2) 緊急時対応訓練

救助訓練の目的

異常気象時や万一、事故が発生した場合、併発事故の防止とお客様の救護を最優先とし速やかに初動体制を取ることや関係箇所への連絡、お客様への対応など、訓練を反復することで社員の対応能力向上を図ることを目的とします。

救助訓練の実施

- ・シーズン営業開始前、全社員による救助訓練を行います。
- ・リフトごと随時救助用具による救助訓練を行います。
- ・リフトごと随時予備エンジンによる救助訓練を行います。

(3) 安全のための投資と支出

安全・安定輸送を索道事業の最重要課題と捉え、平成17年度から5年間「集中対策期間」とし、整備細則や取替基準に基づき必要な施策を計画的に実施しています。また安全対策費用として、決算報告書にあるように、リフト整備を中心に適切な設備投資及び修繕費を、そして誘導あるいはリフト係員パトロール隊などの教育研修費として継続的なおかつ計画的に執行してまいります。

年 度	内 容
平成17年度	かもしかクワッド新設 銀嶺第3リフト立替 銀嶺クワッド山麓駅舎移設 減速機・原動機オーバーホール 折返し滑車整備 油圧緊張シリンダー交換 支えい索切詰工事
平成18年度	銀嶺第1リフト立替 索受け装置整備 油圧緊張ユニット交換
平成19年度	減速機・原動機オーバーホール リフト施設塗装工事 支えい索交換 非常用ブレーキ整備 ブレーキユニット整備

(4) 強 風 対 策

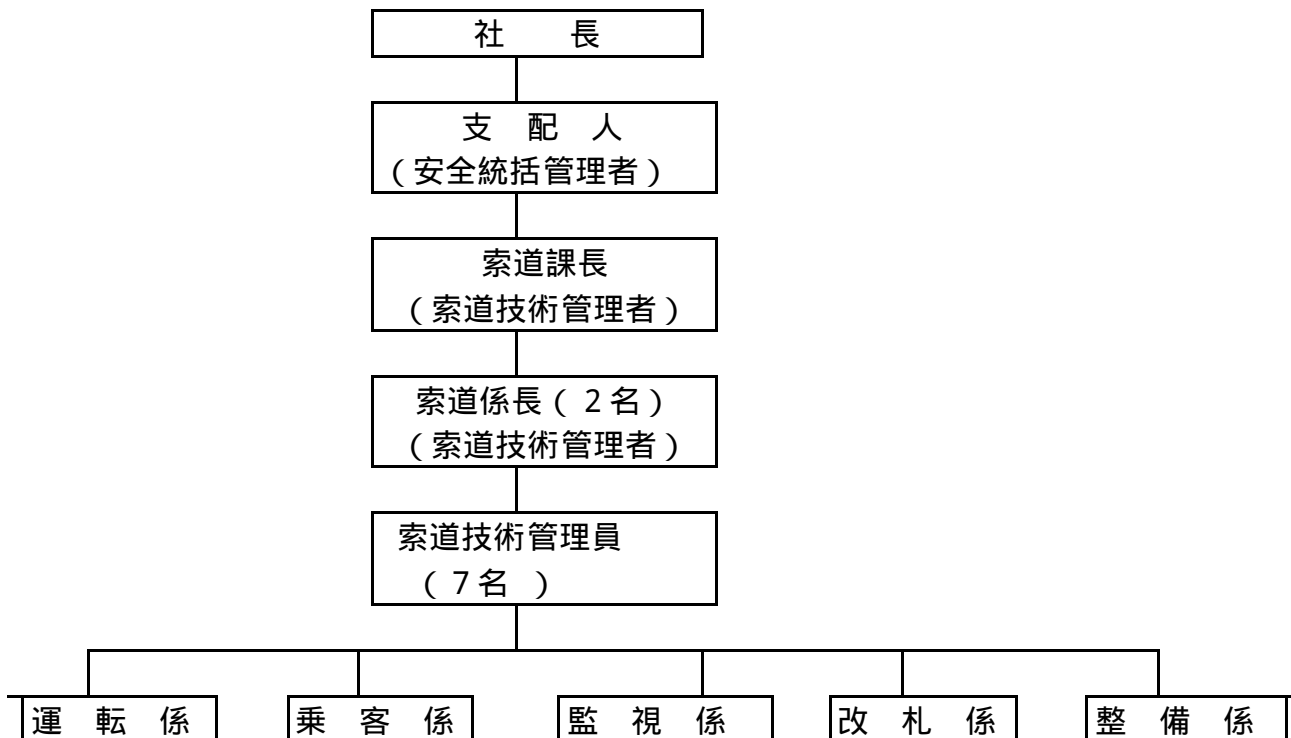
各リフトに風速計を2箇所に設置し、風速・風向の把握をしています。風速の表示が15～18 m/S で警戒運転、19 m/S 以上の風速が5秒間持続すると運転を停止します。

(5) A E D

2005年7月から法改正により非医療従事者による AED (自動体外式助細動器) の使用が認められたのでパトロール詰所に配置しました。

5. 安全管理体制

社長を最高責任者とし、安全輸送の確保に関する業務を統括する安全統括管理者をはじめ、各責任者の責務を明確化した安全管理体制を構築しました。



社 長	輸送の安全の確保に関する基本方針を定めるとともに、最終的な責任を負う。また、安全統括管理者の意見を尊重し、その意見を踏まえ、索道の安全を確保するための必要な改善に向けての取組を行わせる。
支 配 人 (安全統括管理者)	索道事業の輸送の安全の確保に関する業務を統括する。また、社員等に対して、関係法令の遵守と安全第一の意識を徹底させると共に、社長等に対して、輸送の安全の確保に関し、その職務を行う上での意見を述べる。
索 道 課 長 索 道 係 長 (索道技術管理者)	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理、その他技術上の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道技術管理者の行う業務を補助する。

6. お客様との連携

当社では毎日お客様の声を収集すべく、あらゆるご用件やご意見をホームページ上の書き込みメールや電話、FAX また各レストラン・リフト等の各現場においてスタッフが直接お聞きする体制をとっております。年間のシーズン券ホルダーの方々にはサービスのあり方についてアンケートを実施し、満足度向上に努めております。

平成18年度は、要望や提案、質問、苦情、お褒め等約2,000件頂戴しました。お客様からの声は、直ちに状況を確認するとともに、状況に応じて社員指導や必要に応じて安全対策を行っています。また、お客様への回答が必要な場合はホームページ上でも速やかに回答するよう努めています。

7. たざわ湖スキー場からのお願い

安全なスキーを楽しむために、=あなた自身を守る行動規範=

スキー場ではあなたの安全を守るために最善の努力をしております。あなた自身のため、そして他のプレーヤーのためにゲレンデでは以下の事項を守ってください。

1. 常に自分をコントロールできる状態におき、いつでも停止ができ、他人や障害物を回避できるようにしておくこと。
2. 自分の前を滑っている人が優先権を持つ。回避の責任はあなたにあります。
3. コース上で邪魔になる場所、あるいは上から見えないところで止まってはなりません。
4. 滑走の開始、あるいはコースに合流するときは、常に上を見て滑ってくる人がいるときはやり過ごすこと。
5. 用具が流れないように、常に流れ止めをつけておくこと。
6. 標識、警告には必ず従うこと。
7. リフトに乗車する際は、安全に乗り降りするための知識と能力を有していること。

禁止事項

1. 指定されたコース以外や立入禁止区域へ進入すること
2. 表示物・掲示物・標識類を損なうこと
3. 人はもちろん、人工や自然の物体に接近して滑走すること
4. リフトの運行を妨げる行為をすること
5. 雪上車輻に接近すること
6. いたずらに、コースの中を靴足のままで歩くこと
7. 犬などの動物をコースの中に放つこと
8. アルコールや薬物の影響その他の事情により、心身が正常でない状態でスキー場内へ入ること
9. その他、他の人や自分の安全をおびやかすこと

8 . 安全報告書への意見募集

今後の安全推進の参考資料とさせていただきます。
この安全報告書に関するご意見、ご要望がございましたら是非お寄せ下さい。

問い合わせは

〒 014-1201

秋田県仙北市田沢湖生保内字下高野73-2

たざわ湖スキー場

Tel 0187-46-2011 Fax 0187-46-2775

e-mail oc@tazawako-ski.com